

No. 330【2018年11月2日配信】

青森駅西口開設から70年(担当:村上)

こんにちは。嘱託員の村上です。

先月21日、津軽線が全線開業60周年を迎え、青森―三厩間で記念臨時列車が運行されましたね。歴史資料室では昭和33年(1958)の蟹田―三厩間開業に合わせて作られた記念絵はがきと開業当日の今別駅で撮影された写真を所蔵しています。

記念絵はがきの包紙には当時の津軽線の路線図が描かれています。昭和26年に開業した青森―蟹田間が黒い線、昭和33年に開業した蟹田―三厩間が赤い線で示されているのですが、さらに三厩駅から赤い点線が延び、小泊・中里(ともに現中泊町)を経由して五所川原までの間を結んでいます。



津軽線略図

(「津軽線蟹田三厩間開通記念」1958年 日本国有鉄道盛岡工事事務所)

この路線図に示されたルートは、大正11年(1922)に施行された改正鉄道敷設法別表に予定線として示された「青森県青森ヨリ三厩、小泊ヲ経テ五所川原ニ至ル鉄道」に相当します。路線図に引かれた赤い点線からは小泊・中里方面への延伸に対する期待が感じられますが、その後、延伸は行われず、三厩駅が終着となりました。

さて、今回は鉄道に関する話題をもう一つお届けします。今から70年前の昭和23年、青森駅に新しい施設が設けられました。その施設とは駅の西口です。西口は昭和23年12月20日に落成し、この日から一般旅客の乗降や切符販売を開始しました。

実は、青森駅に西口を設ける構想は戦前からありました。『青森市戦災復興史』(1952年 青森市政調査会)によれば「駅の地下をくり抜いて沖館へ通ずる地下道をつくる計画」があり、設計もできていたそうですが、戦争により計画は中止になったといえます。

戦後、西口設置に向けた動きが再開します。昭和 22 年 1 月 11 日付の『デーリー東北』(『青森県史』資料編 近現代 5 No. 224) には「環状線の実現と共に青森駅では一般乗客の混雑を予想して新たに現駅の裏側沖館に西口駅を仮設することになった」とあります。

「環状線」というのは現在の津軽線のことです。津軽線の工事は戦前から進められていましたが、戦争によって中断してしまいました(詳しくは「あおり歴史トリビア」第 200 号をご覧ください)。その工事が再開に向けて動き出すとともに、西口の整備も進められることになったようです。

また、『青森市戦災復興史』には「西口の本格的使命は何ととっても津軽線の発着所」とあります。こうしたことから、西口の設置は津軽線の整備と深く関わるものだったと考えられます。



青森駅西口(平成 29 年撮影)

※今回の内容は『新青森市史』通史編第四巻 現代(2014 年 青森市)などを参考にしました。